

あたらしい 「コミュニティ」



「このところ、講演依頼や取材を受ける機会が増え、わたし達の取り組みが注目されているのだなと感じます。」

NHK山形のディレクターさんに言われてはつとしたのですが、「野外保育をしているところで、地域との関わりを大切にしているところは他にないのではないですか?」ということです。

振り返れば、2009年に福島市で産声をあげたわたし達青空保育たけの子は、原発事故の影響で2011年から活動地を山形県米沢市に移しました。どうがんばっても「よそ者」のわたし達は、なんとかその存在意義を見出そうと、地域との関わりを意識的にしろ無意識的にしろ大切に活動してきました。

それは何より、地域の方たちのちよつとした声かけや優しさが身に染みてありがたかったに他ありません。

◇ローカル魂「やまがた桜物語」

5月19日にTUYさんは、ローカル魂「やまがた桜物語3」の中で、たけの子の活動を紹介してくれました。他の2団体の取り組みとは違って、直接桜に関わる話してはなかったにも関わらず、です。

米沢市にある古民家、敷地には一本のしだれ桜が家を

見下ろすように立ち
木蓮やあじさいなど美しい花々が春に咲き誇る。
長年、空家となっていたこの家に、子どもたちの声がこだますようになった。
利用するようになったのは、

福島市の原発事故を逃れ、毎日福島市から通い野外保育を行う「たけの子保育」

モットーは「なんだって自分でできるんだ」。

TUYさんの番組紹介文です。

大家でもある手塚さんが、わたし達を受け入れてくれた理由は「地域に、日中だけでも子どもたちの声が響くから」でした。いいところ取りだけしていて申し訳ないのですが、その言葉を受け、ありがたく使わせていただいています。

◇「地域活性化学会東日本大震災後10年特別大会」

5月23日には「地域活性化学会」の復興ボランティアをテーマにした企画セッションのパネラーの一人として話をさせていただきました。その中で、「よそ者、若者、ばか者」の地方創生論についても触れました。正にわたし達の団体がそうだからです。

わたしが考える「ばか者」とは、常識にとらわれない柔軟な発想をする人
のことです。常識的な従来までの考え
方では、難局を乗り切っていけないこ

地域を変える人財!?



とが多々あると思います。きっと、次世代を担う子ども達は、なお一層そうでしょう。わたしは、そういう柔軟な発想を自然体験から培っていきけると思っています。

◇野育の会オンラインセミナー「原発事故で守りたかった子どもの外遊びと食」

5月30日は野育の会オンラインセミナーでした。たけの子が米沢市で活動を始めた経緯と、今大切にしていること、そして、フィールドを紹介させていただきました。フィールドを紹介して思ったことは、たけの子は「頂き物で成り立っているな」ということです。稼いで買ったものは、ほとんどないな、と。

ある物は助成金だったり、クラウドファンディングで資金を集めたものだったり、ご近所さん・地域の方達からの善意だったり…。

あれ、こんなに愛されてたんだなとつくづく思わされたのでした。

NHKのディレクターさんにその話をしたら、「頂き物をもらせるのも、力のひとつです。誰でももらせるものではないですから」と言ってもらいました。そうなのか、そうだったのですね、きっと。

そして、そこにこそ、地域創りのヒントがあるのかなと思います。贈り物をする時、差し出した人もまた、何かしら得るものがあるからしてくださるのだと思います。その気持ちに寄り添ってあたらしいコミュニティを創って
いければと、夢を描いています。

迎見 妙子